

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- **自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。** 家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホームやまゆりの家
(ユニット名)	ゆり棟
所在地 (県・市町村名)	秋田県大仙市南外字下木直519-4
記入者名 (管理者)	佐東 麻衣子
記入日	平成22年1月4日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		
	<p>理念「私らしく あなたらしく 毎日が心豊かに過ごせるように 共に支え合い たたえ合い 伸ばしあって 私達は共に歩む」を掲げている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		
	<p>運営者と管理者と職員は、理念を共有し、申し送りの際、理念を唱え日々のケアへの心構えや意識付け、又、再確認しながら、実践に向けて取り組んでいる。</p>		
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		
	<p>家庭的な雰囲気を損ねない形でホーム内に見やすく明示し浸透を図っている。又、広報の表紙に理念を掲げ、家族や地域の人々に理解して頂けるよう理念の浸透に取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		
	<p>運営者や管理者、職員は、入居者との散歩や買い物等を通して、近所の人々と挨拶を交わし、交流を深めている。</p>		
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		
	<p>運営者は、地域の一員として、自治会や地域活動（除草作業・空き缶拾い等）に参加している。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>介護等の悩みや困りごとの相談、見学の受付等している事を事業所の看板やパンフレット、広報に掲げている。又、広報や運営推進会議等で、地域の方や高齢者の方に、認知症でも今までと変わらない生活を送っている事を紹介すると共に理解を深めて頂けるよう取り組んでいる。</p>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>運営者、管理者、職員は、評価の意義を理解し、利用者家族等アンケート、自己評価、外部評価の結果を幹部会議や職員会議等で話し合い、今後のサービスの質の向上や改善に取り組んでいる。</p>	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、事業所の取り組みや職員の研修の報告等、話し合い、様々な意見等を頂いている。運営推進会議には職員も同席し、会議での内容報告を全職員に回覧し、それをサービス向上に活かしている。</p>	
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村担当者に運営推進会議の資料や広報等を直接お渡しし、お互いに行き来する機会を作っている。運営や現場の実情等を伝えたり、サービスの課題に対して相談にのって頂いたりしている。</p>	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者や職員は、事業所内でも勉強会を開き、地域権利擁護事業や成年後見人制度の理解に努めている。又、包括支援センターや関係機関等と連携を図り支援している。</p>	<p>○</p> <p>個人的に勉強したい職員には詳しく記載されている資料を貸し出ししている。今後も権利擁護に関する制度の理解と活用について勉強会を行ってきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修を受けた職員の資料をもとに、高齢者虐待防止勉強会（権利擁護事業・成年後見制度含む）を行っている。事業所内での虐待の見過ごし等ないように全職員、注意を払い防止に努めている。</p>	<p>○</p> <p>今後も事例検討等の勉強会を行い、高齢者虐待防止に努めたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、入居者や家族等に十分な説明を行うと共に、不安や疑問点等ないか確認しながら手続きを進め、理解・納得を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の表情等から訴えている事を読み取ったり、思いを聞きだしたり、本人の気持ちを理解すよう努めている。又、利用者家族アンケートや運営推進会議でも入居者の意見等を表せる機会を設け、話し合い、運営に反映させている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	日頃の様子の写真を送付したり、月に一回「やまゆりの家だより」にて、暮らしぶりや健康状態、予定等報告している。状況によっては、面会時や電話での報告も行っている。又、金銭管理については、月初めにおこづかい帳のコピーと領収書を添付し報告・確認をして頂くほか、面会時等におこづかいの残高を報告・確認しサインを頂いている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情窓口等や意見箱の設置等を文章及び口頭で説明している。又、面会時や利用者家族等アンケート、運営推進会議でも意見等を頂き、その結果に対して話し合い運営に反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者や管理者は、ミーティング・幹部会議・職員会議等で、お互いに意見等を出し合い協議し、運営に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況の変化や要望に柔軟な対応ができるよう、管理者と職員は良く話し合いながら勤務の調整を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は、管理者や職員の配置異動や離職等、やむを得ない場合は、入居者へのダメージを最少にする為の検討を行い、入居者に説明する等、配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>事業所内外の研修を問わず、各自の立場、経験や習熟度の段階に応じて研修の機会を積極的に設けている。</p>	○	<p>「認知症介護」への理解を深める為、新職員への勉強会を行っている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他グループホームとの職員研修や相互訪問等を行い交流している。日頃の仕事の悩みや効率化等話し合い、お互いのサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者は、管理者や職員の話や悩み等を聞き理解するよう努めている。年に数回、運営者と職員相互の親睦会も行なっている。又、休憩室は冷暖房が完備され、畳を敷き、横になって休憩できるよう配慮されている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、管理者や職員個々の日頃の頑張りや、勤務状況を把握し、言葉をかけたり助言等に努めている。又、資格手当の支給や親睦会にて勤続表彰を行い、意欲や向上心を持って働けるよう努めている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問面接にて、家族や本人の状況を十分に把握し、本人自身から望んでいる事や不安等、耳を傾け話を聞き、本人の思いを理解するよう努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前訪問面接にて、家族や本人の状況を十分に把握し、家族の望んでいる事や不安等に耳を傾け話を聞き、家族と同じ立場になって思いを理解するよう努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人と家族の実情や要望をもとに、必要としている支援を見極め、他のサービス利用を含め、出来る限りの対応に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	本人や家族等から、自宅での生活状況を聞き、把握し、自宅での生活と同じように過ごして頂けるように努めている。又、他の入居者や場の雰囲気徐々に馴染んでいただけるよう声掛けを多くする等工夫している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日頃から、「理念」を実践し取り組んでいる。長い人生経験において豊富な知識を様々な場面で教えていただき、又、お互いを尊重しあい支えあう関係を築けるよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	「やまゆりの家だより」で気軽に行事に参加して頂くようお知らせをしたり、面会時には、また来てくださるようあいさつをしたり、入居者への支援等で相談にのってもらおう等、一緒に支えていく関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	バックグラウンドアセスメントを作成し、入居者と家族の関係の理解に努めている。面会や行事等を通じて、今後より良い関係を築いていけるよう支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院に出かけたり、面会・外出・外泊等を通じて馴染みの人や場所とのつきあいを続けられるよう支援している。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者一人ひとりの個性等見極めながら、毎日のレクリエーションや生活リハビリに参加して頂けるよう支援している。孤立することなく、お互いに支え合いよい関係が作れるように見守りや声掛けを行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用終了後も、相談に応じる旨や、いつでも気軽に遊びに来てくださるようお話している。又、サービス利用終了後も、元入居者様や家族の方が遊びに来てくださった事もある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの話を傾聴したり、会話や表情から思いや希望、意向等を把握するよう努めている。把握が困難な場合は、本人の立場にたった意見を出し合い話し合っている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりのバックグラウンドアセスメントを作成し、これまでの暮らしや職歴、趣味等、これまでのサービス経過等の把握に努めている。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	管理者、職員は日誌やケース記録、申し送り等での把握はもちろんの事、入居者一人ひとりの一日の過ごし方や心身状態、レクリエーションへの参加や生活リハビリ等で有する力等、総合的な把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議を開き、課題と支援のあり方について本人本位の検討を行い、介護計画を作成している。又、入居者や家族からの意見や要望等を面会時や電話にて話し合い、介護計画に反映させている。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画見直しの際には、サービス担当者会議を開き、入居者や家族等からの意見や要望等を反映させた介護計画を作成している。又、入居者の状況や状態の変化が見られた際でも、臨機応変に見直しが図られている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している</p>	○	<p>水害時訓練では、避難所・避難場所である小学校の敷地をお借りして行った。今後も理解と協力をいただき取組んでいきたい。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>		
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族等が馴染みの医師等による継続的な医療を受けられるよう、又、状況に応じて希望する医療機関を受けられるよう支援している。事業所の協力医療機関をかかりつけ医とする場合は、十分な説明をし、入居者と家族等の同意を得てから支援している。	
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関の医師は地域の住民や老人ホーム等を長年に渡り診療しており、認知症に関する知識や経験も豊富である為、往診時等は適切な指示や助言、相談にも応じてくれる。又、専門医療を受ける際も連携を図り支援している。	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	協力医療機関の医師と看護師は定期的に往診に来てくれる為、入居者の状態等、良く把握している。往診時や電話にて気軽に相談し、適切な助言を頂き入居者一人ひとりの健康管理や医療活用の支援を行っている。	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院する際は、家族等と相談しながら医療機関に対して入居者の情報提供をしている。又、早期退院に向けて入院中も、病院関係者、入居者・家族等と相談・話し合いをしながら、必要な支援をしている。	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	早期から、入居者の状況や状態を見極め、入居者・家族等、かかりつけ医と繰り返し話し合い、又、入居者・家族等の意向等を確認しながら対応方針の共有を図っている。	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度や終末期の入居者が安心と安全を確保し、より良く暮らす為に、運営者・管理者・職員で話し合い、又、家族や医療関係者等と相談・連携を図りながら、支援するよう取り組んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先の関係者に対して、入居者の状況、習慣、好み、これまでのケアの工夫等、情報を詳しく伝え、出来るだけ今までの環境や生活リズムの継続性等に配慮してもらえるよう働きかけをしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営者・管理者・全職員は、プライバシー確保に努めている。入居者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう十分注意した言葉掛けや対応、ケア等を行なっている。又、記録等の個人情報は鍵付の書庫に保管している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	尊重した声掛けと説明をし、飲み物を選んで頂いたり、着用する衣類を選んで頂いたり、日常的に自己決定の機会を作っている。入居者が言葉で十分な意思表示ができない場合でも、表情や全身の動きから表される意思をくみ取りながら支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	近くの店に買い物に行ったり、気分転換に散歩をしたり、一人居室でゆっくりとした時間を過ごしたりと入居者一人ひとりの生活リズムやペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居者が選んだ衣類や髪型等、個性を大切にしながらおしゃれを支援している。又、行事の際、化粧をして頂くなど気分転換も兼ねながら、おしゃれを楽しんで頂いている。理容・美容院は入居者・家族と話し合い、入居者の望む店に行けるよう支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は入居者と一緒に野菜を刻んだり、味付けや味見をしたり、盛り付けしたり等、入居者一人ひとりの力に合わせて支援している。一緒に食事の準備をする事で食事に関心を持ち、食事を楽しむことができるよう働きかけを行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一緒に近くの店に買いに行ったり、家族にお願いして持って来て頂いたりしている。入居者一人ひとりの状況に合わせて日常的に嗜好品を楽しめるよう、入居者・家族と話し合いながら支援している。	
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	排泄チェック表により入居者一人ひとりの排泄パターンを把握している。一人ひとりの力やパターン、習慣を活かして、排泄の自立・排泄の失敗・不安等、自尊心に配慮した声掛けや誘導、介助を支援している。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者一人ひとりの希望や時間帯、気分的問題や健康状態の見きわめ等、状態に合わせた入浴を支援している。入居者が気持ちよく、ゆったりと入浴できるよう配慮した声掛けをしたり、曜日や時間帯にとらわれず、いつでも入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	寝付けない入居者には温かい飲み物を提供したり、対話ケアにて精神面の安定を図っている。又、ホーム内にソファや長いすがあり、自由にくつろいだり休息できるようにしている。職員は、入居者一人ひとりの生活リズムを乱すことなく、その時々状況に応じて休息したり安眠できるよう支援している。	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの持っている力を見い出しながら、おしぼりたたみ、茶碗拭き、洗濯物たたみ、掃除等役割を持って頂き、又、おやつ後にはレクリエーションにて、ぬり絵やパズル等楽しみや気晴らしの支援をしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の際、入居者や家族と話し合い、管理方法等を取り決めし、入居者一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。買い物の際は、なるべく入居者がお金を持ち、支払う機会を作れるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者一人ひとりの希望にそって、買い物や散歩に出かけ近所の方との交流を図ったり、天候の良い日は、ホーム周辺の遊歩道を散歩しながら、景色や花を楽しんで頂いたり、戸外で気持ちよく過ごせるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望する行きたい所がある場合は、家族等と相談しながら、実現できるよう支援している。入居者と家族で親戚を訪問したり、墓参りに行かれたりしている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は入居者がいつでも使えるようにしており、使用する際は、入居者の有する力に応じてプライバシーに配慮しながら支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	入居者の家族や親戚の方等が訪問された際は、自然な形で迎え入れ、お茶等を出し、居室等で気兼ねなくゆっくりと過ごして頂けるよう配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等行動制限廃止マニュアルを作成している。運営者及び全職員による身体拘束廃止委員会を年3回開催し、マニュアルの再確認や事例等にて「入居者が人間として尊重されたケアが行なわれているか」「拘束を行わなくても、入居者の安全を守る為の支援」を話し合い取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	施錠は夜間のみで日中はしていない。ホールから廊下や玄関が見渡せるので、見守りを強化し、入居者が外に出るような雰囲気を感じたら、さりげなく声掛けをし、一緒についていく等、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員同士が同じ位置での見守りにならないような体制にしている。入居者のプライバシーに配慮しながら動きや様子を把握し、又、職員同士、連携を図りながら安全に配慮している。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物管理保管マニュアルに基づき、危険な物は鍵のある場所に厳重に保管されている。生活上、必要な洗剤・薬・刃物等は、入居者一人ひとりの状態等に応じて職員見守りのもと使用して頂いている。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルを作成し職員は常に目を通し把握している。又、職員からのインシデントレポートでの報告があった場合は、その状況等を詳しく記入し、改善策への話し合いや検討を行い、事故防止に取り組んでいる。	○ 事故防止マニュアルに常に目を通し、又、勉強会を行い事故防止に努めたい。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	救急マニュアルを作成し職員は常に目を通し把握している。入居者の急変や事故発生時に備え、年に数回、応急手当勉強会を開催し実践訓練を行っている。又、運営者・管理者・全職員は2年に一回、普通救命講習を受講している。	○ 救急マニュアル及び応急手当講習テキストに常に目を通し、勉強会を行い、入居者の急変時や事故発生時に対応できるよう努めたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署員立会いのもと日中・夜間想定避難訓練と、年1回、水害時避難訓練を行っている。その際、地域の人々へ協力の呼びかけを行っている。避難訓練後には、運営者・管理者・全職員で意見や反省等出し合い検討している。	○ 火災・災害時マニュアルを見直し、火災・地震・水害への対策マニュアルを作成した。今後も火災・水害時の避難訓練を行い検討を重ね、いざという時に備えたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居者一人ひとりに予想されるリスクについて、家族等にお便りや面会時、電話にて、説明・相談等しながら、抑圧感のない暮らしの支援をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は、毎日バイタルチェックを行ない、又、入居者一人ひとりの普段の様子を観察し把握している。少しでも体調の変化や異変に気づいた際は、速やかに運営者・管理者に報告し、全職員、情報を共有し、早期対応に努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの内服薬等の効能が記載されている資料をファイルしており、職員は薬の目的等理解に努め、正しく服薬できるよう支援している。服薬後や薬の変更時等の入居者の状態や変化等の観察に努めている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	自然排便を促す為に、こまめな水分補給・食物繊維の多く含む食材・牛乳等の乳製品の提供や、レクリエーションでの体操や散歩、個別に歩行練習等取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	年1回、協力医療機関の歯科医による歯科検診を行っており口腔内の観察に役立っている。職員は、毎食後、入居者一人ひとりの口腔状態や力に応じた口腔ケアを支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した献立表を作成し、年2回、管理栄養士に助言を頂いている。食事摂取量や水分摂取量に関しては、記録に残し、入居者一人ひとりの一日の摂取量の把握に努め、状態や力に応じて、こまめな栄養・水分補給等の支援をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	うがい、手洗いの励行に努め、手すり等も消毒液（ハイター）で消毒している。又、感染症予防マニュアルを把握し、ノロウイルス対策勉強会を行っている。流行している感染症等には、早めに予防策や対応策を話し合い取り組んでいる。	○	今後も感染症予防マニュアルに常に目を通し、勉強会を行い、予防策・早期発見・早期対応に努めたい。その時々々の流行の感染症等についても、随時マニュアルを見直し感染症予防に努めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	感染症予防マニュアルを把握し、衛生管理記録表により毎日汚れのチェックと定期的な調理用具等の消毒を行っている。又、調理の際、エプロンを替え調理している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	春先には職員と入居者がプランターに花を植えたり、種をまいたりして玄関先に飾っている。ホーム周辺の遊歩道には金芽ツケの並木や季節の草花等が植えられ、又、玄関には木目を活かした表札をかけており、家庭的な雰囲気と親しみやすい環境に配慮している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室とホールにはブラインドが設置され、日差しを調整したり、又、ホーム内には、換気扇や空気清浄機が設置され、一日数回窓を開けて換気したりと、入居者が快適に過ごせるよう配慮している。廊下やホールには季節感を感じて頂けるよう花を飾ったり、装飾をしたり工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下には、ソファーや長いすが置いてあり、入居者にとってくつろぎの空間となってる。気の合った入居者同士で会話を楽しまれたり、ひとり、外の風景を眺めたりと思い思いの場所で過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や 寝具、生活用品、装飾品等を持ち込んで頂いてい る。又、居室に畳を敷いたり、自宅での生活と 同じように安心して生活して頂けるよう工夫して いる。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	各居室には温度計を設置し、適温の配慮をしてい る。ホール等の共用空間には温湿度計を設置し、 日中・夜間とも数時間おきに温湿度を記録し調整 を行っている。換気扇や空気清浄機も設置され、 又、入居者の状況に応じて一日数回、窓を開け換 気も行い空気のおよみ等に配慮している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーである。入居者の使いや すい高さに手すり、便座横には立ち座りをサポ ートする手すり、浴槽にも滑り止めや手すりを設置 し、身体機能を活かし安全に生活して頂けるよう 工夫している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	種類や色の違う造花を各居室の表札の上に飾り目印と なるようにしたり、トイレも分かりやすいように表示 している。又、傷やしみ等を見つけた際は、補修し、 入居者一人ひとりの分かる力を見極めて、混乱や失敗 を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ホーム周辺の遊歩道を景色や季節の草花等を楽しみ ながら散歩をしたり、玄関先のベンチで日光浴をし たり、花に水をやったり等して頂いている。又、ホ ーム前や横の広い場所を活用して、両棟合同で花火 &盆踊り大会や秋の収穫祭等を行い入居者が楽し んだり、活動できるように活かしている。		

( 価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

*職員は定期的に勉強会を行い、入居者の安心と安全を支援できるよう知識・技術の向上に努めている。

*ホーム周辺の遊歩道を、風を感じ、四季折々の景色と草花等を楽しみながら散歩して頂いている。新鮮な畑の野菜や、やまゆり田園で収穫したお米を、皆で感謝しながら味わう喜び等、これからも自然豊かな環境を活かしながら支援していきたい。